

五感の翼
を広げよう

iichiko
総合文化センター
大分県立美術館 総合情報誌

2021
AUTUMN
94
Take Free

特集

東京バレエ団

くるみ割り人形

Content

語りと音楽でつづる
天正遣欧少年使節の物語

諏訪内晶子
J.S.バッハ 無伴奏ヴァイオリンリサイタル

GENKYO 横尾忠則
「原郷から幻境へ、そして現況は?」

相田みつを全貌展
～いのちの尊さ ことばのチカラ～



The
Nut
cracker

Photo: Kiyonori Hasegawa

大分県芸術文化スポーツ振興財団
Oita Prefecture Arts, Culture and Sports Promotion Foundation

大分県芸術文化スポーツ振興財団季刊広報誌

2021 AUTUMN vol.94

企画・編集(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団 〒870-0029 大分県大分市高砂町2番33号(iichiko総合文化センター内)
発行日 2021年9月3日 企画・編集協力: おおいたインフォメーションハウス(株)

びび的 Lifeスタイルのススメ

メンバーステージ
TAKASAGO



びび会員 田染 真知子さん(大分市在住)

OPAMの開館当初から4年間スタッフとして働いていたこともあり、OPAMにはいろいろな思い出があります。それまでは美術なんてあまり興味がなかったのですが、いろいろな展示に触れていくうちに見方が分かるようになり、今では自分が自分らしくいられる大切な私の居場所となっています。インスタレーションなどは、展示の仕方によって随分見え方が変わるので、ほかの美術館の展示と見比べるのも面白いですね。「びび」会員で良かったと思うのは、好きな展示に何度も足を運べることや、「びびショップ」で割引特典が受けられること。テーマによって展示が変わる「コレクション展」を観るのも毎回楽しみです。最初は1人で、次にギャラリートークを聞きながら…と、いつも気軽に立ち寄っています。



◀東西のヴィーナスや大分の仏が出会いを果たした「神々の黄昏」。狛犬、神輿、クリムト…ととも興味深い展示でした



◀展示に関する資料などはファイルで大切に保管。手前はミュージアムショップで購入したテキスタイルデザイナー・須藤玲子さんのポーチ

租品を
差上げます

このコーナーに出てくださるびびメンバーを募集しています。■申し込み先…097-533-4025もしくはメールbivi@opam.jpにて

お得がいっぱい!

大分県芸術文化友の会



びびメンバー大募集!

びびとは、大分県立美術館(OPAM)とiichiko総合文化センターを中心に、大分県の芸術・文化を多くの皆さんに楽しんでもらうメンバーシップです。最新情報が届くメールマガジンの配信のほか、有料会員になると様々な特典が。コンサートや展覧会などをお得に楽しめます。

●メンバーステージと年会費

KOTOBUKI	TAKASAGO	UME
10,000円	5,000円	2,500円

※メンバー期間は入会日または更新日から1年経過した日の属する月の月末までです。
※メンバー期間中に更新すると、次回年会費10%割引となります。
※MEJIRO会員(無料)もあります。(情報誌等でお伝えしきれない情報をタイムリーに配信します。)

●有料会員特典内容の一例

特典1 先行予約ができる
特典2 チケット割引がある
iichiko総合文化センターが主催、共催または指定する公演のチケットが一般発売前に10%割引等メンバー価格で購入できます。
KOTOBUKIメンバーはセンター主催公演のチケットが15%割引となります。

特典4 駐車場券進呈
KOTOBUKI…25時間(5,000円分)
TAKASAGO…10時間(2,000円分)
の駐車場券を進呈します。

お友だちの分も一緒にOK!
※枚数制限があります

特典3 無料鑑賞がある
KOTOBUKI・TAKASAGO会員は主催企画展やコレクション展が無料。

特典5 各種サービスがある

「びびshop」で割引やプレゼントなどの特別サービスが受けられます。「OPAM Museum Shop」でも5%割引(一部商品を除く)となります。

びびBOOKに様々なサービスを記載しています▲

◎入会は随時受け付けています。
◎メンバーズカードは、会費の納入を確認後、1~2週間後に郵送いたします。いったん納められた会費の払い戻しはいたしません。
◎特典内容はメンバーステージによって異なります。

表紙のワード「五感の翼」とは?

「芸術文化ゾーン」とは、iichiko総合文化センターと隣接する大分県立美術館とで構成された空間のことを指します。両施設は翼をはばたかせるように連携して、美術と音楽等幅広い分野の芸術文化の融合と、新しい価値の創造などの活動を展開しています。こうした感性・創造性を磨く「芸術文化ゾーン」を皆様に知っていただきたい、そういう思いから「五感の翼」をコンセプトワードにしています。



●問合せ・申込先

(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団
大分県芸術文化友の会 びび

〒870-0029 大分市高砂町2-33
E-mail bivi@opam.jp
tel.097-533-4025 / fax.097-533-4050

びび友の会

https://emo.or.jp/bivi/

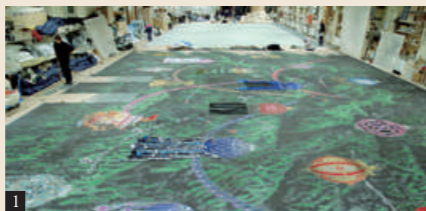




- 1 キービジュアルのクリスマスツリーを制作中の様子
- 2 舞台衣装はバレエの本場、ロシアの工房で製作されました。



Photos:Sergei Fedorov



東京バレエ団

くるみ割り人形

The Nutcracker



チャイコフスキーの名曲とともに踊られるクリスマス夢物語。カラフルな衣裳と壮大な美術によつて新鮮な命を吹き返した東京バレエ団の最新『くるみ割り人形』を、フル・オーケストラとともに楽しむ特別な時間をどうぞ。

チャイコフスキーの音の魔法を紡いでできたバレエ『くるみ割り人形』

チャイコフスキーが作曲した三大バレエ音楽のひとつである『くるみ割り人形』は、今から130年ほど前にサンクトペテルブルクのマリインスキー劇場で初演されました。「雪片のワルツ」や「こんぺいとうの踊り」など、魅力的な音楽で構成されたこのバレエは、今や世界中のクリスマスを彩る冬の風物詩となっています。原作は作家E.T.A.ホフマンが書いた『くるみ割り人形』とねずみの王様』という童話で、これをアレクサンドル・デュマ(父)が再編した物語をもとに振付家のマリウス・プティパがバレエ台本を書きました。バレエの制作中にプティパが亡くなつてしまったため、最終的に完成させたのは弟子のレフ・イワノフでした。以後、英国やアメリカなど他の多くの国で、チャイコフスキーの音楽を使つたさまざまな演出・振り付けの『くるみ割り人形』が作られてきました。東京バレエ団が現在上演している『くるみ割り人形』は、2019年に新しく制作されたものです。それまでバレエ団で37年間踊られ続けてきた旧ヴァージョンのエッセンスを引き継ぎ、原典である「イワノフ版」からもヒントを得た、幻想的でスケールの大きなバレエにヴァージョンアップされています。ロシア・バレエの正統派の伝統を引き継いだ振付・演出は、東京バレエ団の現芸術監督・斎藤友佳理によるもの。色とりどりの衣裳も、大迫力の美術もロシアの壮麗な世界を表現しており、観る者を魅了します。

お菓子の国の衣裳も見どころのひとつ

2幕では、マリーシャと王子を乗せた船がクリスマスツリーの世界へと上昇していきます。ピエロ・コロンビーヌ・ウツデンドールも一緒です。お菓子の国に辿り着くと、様々な国の民族衣装を身にまとつたダンサーが、次から次へと魅惑的なダンスを披露します。スペイン(チョコレート)、アラビア(コーヒール)、ロシア(飴菓子)、フランス(ミルリトンというお菓子)、中国(お茶)とお菓子の国の踊りは百花繚乱です。チャーミングな衣裳はロシアのデザイナー、オリガ・ウロステリョワによるもので、どの国も個性があり見飽きることがありません。東京バレエ団ヴァージョンの『くるみ割り人形』では約200点のコスチュームが使用されるのです。夢の世界を完璧に舞台で表すために、ダンサーも完璧なテクニクを見せます。この2幕の各国の踊り(ディヴェルティスマン)では、高度な技術のパ・ド・ドウやアンサンブルがたくさん登場します。このシーンに出て来るユーモラスで表情豊かなダンサーたちは、一人たりとも見逃せません。城ではマリーシャと王子を祝福する宴が準備され、幸せな二人の踊りが披露されます。東京バレエ団のプリンシパルによる素晴らしいパ・ド・ドウを楽しむことができます。エピソードでは、ベッドの上で目を覚ましたマリーシャが、もとの姿に戻つたく

DATA

東京バレエ団『くるみ割り人形』
12/19(日) ▶iichikoグランシアタ

16:00開演、18:10終演予定 全席10,000円、S席8,000円、A席6,000円、B席4,000円、C席2,000円、U25割(A~C席のみ)半額 演出・振付 斎藤友佳理(東京バレエ団芸術監督) iichiko総合文化センターTel:097-533-4004

舞台写真:Kiyonori Hasegawa

夢のようなクリスマスパーティー

1幕では雪景色の中、マリーシャの家、シユタールバウム家に向かうお客たちの姿が見えます。陽気な子どもたち、大人たち、マリーシャの名付け親のドロツセルマイヤーもいます。ドロツセルマイヤーはマリーシャにねだられてくるみ割り人形をプレゼントしますが、やんちゃな弟のフリッツが壊してしまします。ドロツセルマイヤーがうまく治してくれましたが、悲しみが止まらず寝室に戻つてからも人形に話しかけるマリーシャ。舞台美術家アンドレイ・ポイテンコ氏のもと、すべてロシアで制作された装置は独創的で、マリーシャが幻想の世界へと誘われるシーンでは、クリスマスツリーがどんどん大きくなっていくのに驚かされます。等身大のねずみの大群が現れ、機械仕掛けのおもちゃの兵隊が目覚まし、ねずみ、兵隊、くるみ



割り人形の戦いが始まります。兵隊たちを踊るのは、東京バレエ団のキエートな女性ダンサーたちです。長い脚を上げて馬を操り、ねずみたちと闘う兵隊たちは、手塚治虫さんのマンガ「リボンの騎士」のヒロインを思い起こさせます。この可愛い兵隊さんの群舞を見られるのも東京バレエ団の魅力の一つです。

マリーシャはねずみの王様にスリッパを投げつけてくるみ割り人形を救出し、ドロツセルマイヤーは魔法でくるみ割り人形を美しい王子の姿に変えます。この瞬間はバレエの中でも特に感動的な場面です。「雪片のワルツ」が始まり、雪の精たちと王子とマリーシャは銀世界の中で一緒に踊ります。チャイコフスキーの音楽も最大に盛り上がる場面です。



西洋音楽発祥の地プロジェクト

iichiko総合文化センターでは、西洋音楽発祥の地プロジェクトに取り組み、当時聴かれていたり、演奏されていた音楽や演劇の公演を開催しています。



Photo:堀田力丸

戦国時代、九州のキリシタン大名の名代として4人の少年たちがはるばるローマ教皇の元へ派遣されました。信仰に命を捧げた少年たちの壮大なドラマを、語り、古楽器演奏、歌を交え上演します。

あらすじ

日本における布教の拡大とその支援を求めため、キリシタン大名の名代としてローマに派遣されたまだ13、4歳の4人の少年たち(遣欧少年使節団)は、生還率50%という過酷な航海を幸運にも成し遂げ、ローマ教皇との謁見を果たします。ヨーロッパの文化に触れ様々な経験をした彼らは、日本を出港してから8年ののち日本に帰還。日本を出港した時にはまだ幼さを残していた彼らも、立派な青年となっていました。己の使命を胸に意気揚々と旅立ち、いよいよ日本での布教を夢見て帰ってきた彼らを待ち受けていたのは、禁教令の発布。彼らはそれぞれに不遇な晩年を迎えることとなります。

濱田 芳通

Profile

企画・構成/音楽監督/リコーダー/コルネット
古楽アンサンブル「アントネッロ」主宰
我が国初の私立音楽大学、東洋音楽大学(現東京音楽大学)の創立者を曾祖父に持ち、音楽一家の四代目として東京に生まれる。リコーダーとコルネットのヴィルトゥオーゾとして高い評価を受けるとともに、バロック・オペラの指揮者としても活躍中。一方でアントネッロ結成以来、南蛮音楽の研究も続けている。2019年(第6回)JASRAC音楽文化賞受賞



古楽アンサンブル「アントネッロ」のリコーダーであり、リコーダー&コルネット奏者の濱田芳通さんにお話を伺いました。

語りと音楽でつづる「天正遣欧少年使節の物語」

— 天正遣欧少年使節を題材に取り上げた理由は何ですか？
天正遣欧少年使節の物語は明治時代に魅了、我々の知るどころとなりました。彼らは西洋音楽に携わるすべての日本人の大先輩であり、特にその時代を専門にしている私にとっては、実際にヨーロッパに渡り、当時の音楽、今では神格化されている大作作曲家の演奏をも、生で見聞きしたという、信じられない存在なのです。

— 古楽、古楽器の魅力は何ですか？
古楽の魅力は私にとつて、その作品たちの素晴らしさ、作曲様式の素晴らしさということになるでしょう。ひと口に古楽と申しましたが、中世ルネサンス、バロック期の約800年間の長い期間を網羅しています。時代を越ればほるほど、作品は即興的で靈感に満ち、より神に近い存在に感じられます。今回演奏する曲は17世紀前後、音楽ではルネサンス後期、バロック初期にあたり、即物的なデカルト・ニュートン時代を前にした、靈感的音楽の最後の砦となっている頃かもしれません。

— 見どころ・聴きどころを教えてください。
初めてルネサンス音楽を耳にする方々には、その現代にも通じるポップ性、そして、前述のように、「和」に通じる何かを感じ取っていただければうれしいです。

— 大分の皆さんに一言お願いします。
大分は日本人が初めて西洋音楽を奏でた土地、そのような素晴らしい地で音楽を演奏できる喜びを分かち合えたらうれしく思います。

— これまで上演を重ねていますが、初期のころと変化(または変更)しているところはありますか？
2007年にCD「天正遣欧使節の音楽」をリリースしましたが、当時の演奏会は朗読と演奏のみで、4人の少年を見立てた芝居はつけていませんでした。10年後の2017年、東京での開催をきっかけに、歌手4人を天正遣欧

西洋音楽発祥の地プロジェクト 主なラインナップ

天正遣欧少年使節の物語

11/28(日) ▶ iichiko音の泉ホール
開演15:00 一般4,000円、U25割2,000円
音楽監督:濱田芳通
語り:野中民美代
演奏:アントネッロ
(Cemb 上羽剛史、Gamb 武澤秀平、Per 田島隆)
歌と芝居:彌勒忠史、上杉清仁、中嶋克彦、坂下忠弘



諏訪内晶子 無伴奏ヴァイオリンリサイタル

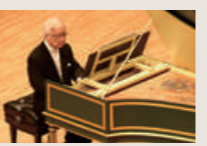
10/20(水)
▶ iichikoグラシアタ



P5で詳しくご紹介!

小林道夫 チェンバロリサイタル第5章

2022年1/30(日)
▶ iichiko音の泉ホール
開演14:00
一般3,000円、U25割1,500円



OPAM関連事業

コレクション展Ⅲ
『豊の国・温故知新』
開催中▶12/20(月)
休展日:12/1(水)

異文化を積極的に受け入れる進取の気風に富む大分。大友宗麟の時代の南蛮文化や、江戸時代後期より田能村竹田を中心に広く普及した豊後南画、近代以降に芸術として大きく花開いた竹芸、これら豊の国の芸術文化の足跡を辿るとともに、現在へとつながる影響などについてもご紹介いたします。



Photo:濱口アナスタシア

1988年イタリア・ヴェローナ生まれ。9歳よりクラリネットを始める。2017年より東京フィルハーモニー交響楽団首席クラリネット奏者に就任。現在ヨーロッパと日本を拠点に幅広く活躍。

クラリネット界で快進撃を続ける若き才能！

「舞い込んできた大分公演！なんて美しいチラシー」と愛嬌たっぷりの笑顔で話し始めたアレックスサンドロ・ベヴェラリ。チャイコフスキー国際コンクール管楽器部門3位(クラリネット最上位)、ジャック・クリンソロ国際コンクール1位等、名だたる国際コンクールで1位を獲得し続け、昨年、今年のスケジュールは日本国内のみならず、欧米各国の楽団との共演等できしり埋まっていた。が、突然世界を襲った新型コロナウイルスですべての演奏会が飛び、家族とも1年以上以上会えない日を迎える事になった。演奏の場を失ったベヴェラリにとって、久しぶりの大きな舞台での演奏会の依頼は、今年に入り一番の喜びだったと言う。気温35度を超える夏日、都内の彼お気に入りのカフェで話を伺った。

「舞い込んできた大分公演！なんて美しいチラシー」と愛嬌たっぷりの笑顔で話し始めたアレックスサンドロ・ベヴェラリ。チャイコフスキー国際コンクール管楽器部門3位(クラリネット最上位)、ジャック・クリンソロ国際コンクール1位等、名だたる国際コンクールで1位を獲得し続け、昨年、今年のスケジュールは日本国内のみならず、欧米各国の楽団との共演等できしり埋まっていた。が、突然世界を襲った新型コロナウイルスですべての演奏会が飛び、家族とも1年以上以上会えない日を迎える事になった。演奏の場を失ったベヴェラリにとって、久しぶりの大きな舞台での演奏会の依頼は、今年に入り一番の喜びだったと言う。気温35度を超える夏日、都内の彼お気に入りのカフェで話を伺った。

DATA アレッサンドロ・ベヴェラリ クラリネットリサイタル
 10/15(金) ▶ iichiko グランシアタ
 19:00開演 [全席指定] S席3,000円、A席2,000円、U25割引半額※未就学児入場不可 iichiko総合文化センター-Tel:097-533-4004

特殊奏法に超絶技巧 フルートの可能性を広げ続ける 次世代型アンサンブル



マグナムトリオリーダー 多久 潤一朗さん

「マグナムトリオ」はどんなグループですか？
 フルートのあらゆる可能性に日々挑戦している「フルートを掘り下げすぎた」グループです。新しい奏法で演奏したり、楽器をハバラにしてパーツを入れ替えたり、改造したり、見せ方にこだわったりと、今までやってなかったことを色々やっています。

今回の公演の見どころは？
 1曲1曲にアイデアが詰まっています。フルートのイメージがガラッと変わるような、楽器の可能性を感じられる公演になると思います。

本公演では多久さんが作曲された曲も演奏されますが、普段どのようなことを考えて作曲されていますか？
 「こういう音楽をやりたい」というより、「こういうネタをやりたい」「お客さんがウケる」ということを念頭に作曲しています。例えばフルートを何本も結合させた長い「フルーパート」で演奏してみたいと思えば、その楽器で出来る曲を作るとか、コンセプトとアイデアが一番先ですね。

今回はワークショップが2つ開かれますね。
 1つは「ちくわ、コップで曲を吹いてみよう！」というものです。

現代音楽のスペシャリストとして国内外の作曲家の新作初演を依頼されること多数。また、アニメ「鬼滅の刃」や、Nintendo Switch「スーパーマリオ」などのフルート及び和笛、民族笛なども担当している。



マグナムトリオ

てみよう！」というものです。今回はちくわに穴を開けず、袋から出してすぐの状態を、テクニクだけで吹くというものです。シンバルにフルートの吹き方を習得できます。鳴らす喜びを感じてもらえれば、楽器が初めての人でも楽しめると思います。もう一つの「特殊奏法道場」は、フルート経験者が対象で、伸び悩んでいる人にもおすすめです。「フルートってこういう仕組みで音が鳴るんだ」と思えるようないろんな音の出し方を伝授します。様々な吹き方を試すことで、新しい奏法の扉が開くといいなと思います。

最後に大分の人にメッセージを。
 僕は福岡出身の九州男児なので、九州に行けることが楽しみ。メンバー全員初の大分なので、楽しんで帰りたいと気合いが入っています。ぜひ遊びに来てください。

ワークショップ (要申込・チケット)
11/6(土) ▶ iichiko Space Be リハーサル室

1 身近なものがフルートに？ ちくわ、コップで曲を吹いてみよう！
 対象:小1~中3 (フルート経験問わず)
 13:00開場、14:00開講 ¥500円(保護者は1名のみ無料。ただし要チケット)※持ち物:コップ(ちくわは当日お渡し)

2 特殊奏法道場
 対象:フルート経験者 (年齢問わず)
 16:00開場、16:30開講 ¥参加1,000円、聴講500円
 ※持ち物:フルート、譜面台(聴講の方は不要)

ヴァイオリニスト 諏訪内晶子

1挺のヴァイオリンが織り成す究極の調べ

7年半ぶりにiichikoグランシアタのステージに立つ諏訪内晶子。近年「国際音楽祭NIPPON」の芸術監督を務めるなど活躍の幅を広げている彼女が、今回バッハの無伴奏に挑みます。そんな彼女に本公演についてお伺いしました。

— 今回は無伴奏でのリサイタルですが、J.S.バッハ以下バッハのソナタとバルティータを選んだ理由は？
 バッハの無伴奏は、ヴァイオリニストにとって聖書・バイブルの様な存在。ヴァイオリニストにとっては馴染みの曲ですが、原点を見つめる様な特別な作品です。演奏を続けるという事は、同じ作品でも、奏者が演奏する時期により、異なった観点から表現出来る事が多くあります。この曲は、ある程度の経験や自分自身の芸術的な方向が固まってからやると表現できる演奏曲目だと個人的には思っています。今回機が熟してこのようなツアーを行うに至ったという感じですね。

— 諏訪内さんにとってバッハとはどのような作曲家ですか？
 諏訪内さんにとってバッハとは、予定されている演奏会に向けて、通常であった時と同様に準備をしますが、コロナ禍では直前で中止や延期になる事が多く、次の演奏会に向けて毎回立て直さなくては行けません。でも一方で、曲とじっくり向き合える時間が生まれました。さらにはこ

の時間を活用して、昨年の秋に20年間使用していた「ストラディヴァリウス」から「グアルネリ・デル・ジェス」という作家の楽器に変更をしました。時間に追われることなく楽器と向き合える時間が持てた事は、有意義でした。楽器を変えるという事は、新たな人生を違うパートナーと歩むという感じ。コロナ禍でこの楽器に出会えたことは、まさに運命ですね。

— 今回は7年半ぶりの大分、初の無伴奏ということで、多くの方が楽しみにしています。最後にメッセージをお願いします。
 「iichiko グランシアタ」は音響がとても素敵なホールです。今回ヴァイオリン1挺で舞台上に立てるのは、大変光栄です。みなさんとお会いできるのを楽しみにしています。

DATA
諏訪内晶子
 J.S.バッハ
 無伴奏ヴァイオリンリサイタル
 10/20(水) ▶ iichiko グランシアタ

18:30開場、19:00開演 ¥S席5000円、A席4000円、B席3000円、U25割引半額(A・B席のみ)※未就学児入場不可 諏訪内晶子 曲 J.S.バッハ/無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとバルティータより ソナタ第1番 短調 BWV1001、バルティータ 第2番 二短調 BWV1004(シャコンヌ付き)ほか
 iichiko総合文化センター-Tel:097-533-4004

西洋音楽発祥の地 プロジェクト

大分県は、16世紀後半にキリスト教の伝来とともに音楽をはじめとした西洋文化が花開いた地です。府内や臼杵の教会では日本でいち早く、賛美歌が歌われたことから、「西洋音楽発祥の地」と言われています。iichiko総合文化センターでは、『西洋音楽発祥の地プロジェクト』に取り組み、当時、聴かれていたり、演奏されていた音楽や演劇の公演を開催します。



GENKYO YOKOO TADANORI GENKYO 横尾忠則

[原郷から幻境へ、そして現況は?]

過去最大級の全国巡回展!

本展は絵画を中心にグラフィックの代表作を加えた豊富な出品作品によって、横尾忠則の生涯の展開を辿りながら、その芸術の特性を明らかにするものです。監修は、長年にわたり画家との信頼関係を築いてきた、元愛知県美術館館長の南雄介氏。愛知・東京に続き、ここ大分でも、全国から集めた貴重な横尾忠則作品を観ることができます。九州で過去最大規模の個展となる本展は、「ヨコオ・ワールド」にどっぷり浸かることのできる、またとない機会です。

つねに第一線で活躍し、日本を、そして世界を魅了し続けてきた、アート界のレジェンド、横尾忠則。大分初の大規模個展が、この冬OPAMで開催されます! 知っておきたい展覧会のポイントをご紹介します!



《愛のアラバスク》2012年 作家蔵



横尾忠則 撮影:三部正博

横尾忠則

1936年、兵庫県西脇市生まれ。高校卒業後、神戸でデザイナーとしての活動を始め、1960年に東京に進出、グラフィック・デザイナー、イラストレーターとして脚光を浴びる。1980年にニューヨーク近代美術館で大規模なピカソ展を見て感銘を受けたことを契機に、「画家・芸術家」へと活動領域を拡大。現在に至るまで、斬新なテーマと表現による作品を次々と発表し、国内外で高い評価を得る。

4章でめぐる横尾忠則の歩み

本展は横尾忠則の今日に至るまでの歩みを、概ね年代順に4つの章で紹介いたします。

第1章

少年時代をテーマにした作品や、西脇・神戸時代のポスター作品等を展示。絵の好きな少年がグラフィック・デザイナーになるまでをたどります。



A.

第2章

日本の土俗的なモチーフとポップ・アートの感覚を融合し、独自の表現を開花させた、60年代のグラフィック・デザインや絵画をご紹介します。



B.

C.



D.



第3章

画家として本格的に活動を開始した1980年から2000年までの絵画を展示。森、肉体、神話、滝など、多岐にわたるテーマを、鮮やかな色彩と様々な手法や素材により視覚化していった、迫力に満ちた作品が並びます。

第4章

2000年代から今にかけての「現況」に注目し、自身の過去の作品を反復・変換した連作や、肉体的な限界を逆手にとって絵画を多様に変化させてゆく近年の作品をご紹介します。

DATA

GENKYO 横尾忠則 原郷から幻境へ、そして現況は?

2021年 12/4 (土)~2022年 1/23 (日) ▶大分県立美術館 1階 展示室A

※ 10:00~19:00、金・土曜~20:00 ※ 入場は閉館の30分前まで ※ 一般1,200 (1,000) 円、大高生1,000 (800) 円 ※ 中学生以下は無料 ※ () 内は前売りおよび有料入場20名以上の団体料金 ※ 大分県芸術文化友の会 びびり KOTOBUKI無料 (同伴者1名半額)、TAKASAGO無料、UME団体料金 ※ 障がい者手帳等をご提示の方とその付添者 (1名) は無料 ※ 学生の方は入場の際、学生証をご提示ください ※ 本展会期中に限り、半券提示でコレクション展を1回無料でご覧いただけます。 ☎ 大分県立美術館 Tel:097-533-4500

- A.《想い出と現実の一致》1998年 富山県美術館
- B.《TADANORI YOKOO》1965年 国立国際美術館
- C.《ミケランジェロと北斎の因果関係》1990年 横尾忠則現代美術館
- D.《追憶あれこれ》2019年 作家蔵 (横尾忠則現代美術館寄託)

主催: 公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団・大分県立美術館、朝日新聞社、文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会
特別協力: 横尾忠則現代美術館、国立国際美術館 共催: OAB大分朝日放送

「GENKYO 横尾忠則」関連コンサート開催
「蓮沼執太フルフィル」でのアルバム「フルフォニー」のジャケットアートワークは横尾忠則氏が担当。彼を敬愛してやまない蓮沼執太さんに、その絵の魅力、12月に大分で開かれる「蓮沼執太フルフィル」の公演について語ってもらいました。



▶横尾さん制作のマスクをしている蓮沼さん

蓮沼執太

音楽家、アーティスト。1983年東京都生まれ。蓮沼執太フルフィルを組織して国内外でのコンサート公演をはじめ、映画、ドラマ、舞台などの音楽を制作。また個展形式の展覧会で作品発表も行う。最新アルバムに『NHKよるドラ「きれいのくに」オリジナル・スコア』(2021年)。

個性で彩られた、最新鋭のポップオーケストラ



2020年「FULLPHONY」ArtWork:横尾忠則

—— 今回の公演は、昨年発売されたアルバム「FULLPHONY」(フルフォニー)のアーティストワークを、横尾さんが手掛けたことで実現しました。横尾さんへの依頼のきっかけは?

アルバムの録音後には、当然アートワークが必要になってくるのですが、今回は「横尾さんしかない!」とピンと来たんです。ね。「FULLPHONY」が普段の「蓮沼執太フルフィル」だけではなく、公募でさらに人を増やしたラージアンサンブルだったこと、いろんな人で1つの音楽を演奏していること、僕の活動の中でも大きな楽曲でもあったので、そういったものとか横尾さんの絵の存在が重なったのかもかもしれません。

—— 大分の展覧会開催に先駆け、「愛知県美術館」で同展をご覧になられたとのこと。感想をお聞かせください。

展示は量も多く、とにかく圧倒的でした。長年ファンの僕にとっては構成もとても興味深かったです。昔の作品も並んでいるのですが、今の横尾さんの世界!という感じもしたし、実際に絵に対峙すると、やっぱり世界観がすごく強かったです。作品1つだけでもパワーあるのにそれが大量に展示されていて、集中して観ていたらパワーが吸い取られて、とても疲れました(笑)。なので、少しずつ観ながら、何度も鑑賞するのがおすすめです。

—— 特に気になった作品はありましたか?

《戦後》というシルクスクリーンによる陶板画の作品です。磯崎新さんによるフレームとのことでした。横尾さんのアトリエも磯崎建築とのこと、まさに大分ゆかりですね。戦後の焼け野原に浮かぶ4本の手。空間からはみ出してくるような作品でとても印象的でした。

—— 今回のワンコインリレーコンサートについてお聞かせください。

「蓮沼執太フルフィル」はちょっと変わった編成のアンサンブルです。普通のオーケストラとは異なっていて、管弦楽器だけではなく、ドラムが2台あったり、スティールパンというトリニダード・トバゴ生まれのドラム缶で出来た打楽器、ギターやベースなど、いろいろな楽器で構成されています。大人数のフィルのメンバーを率いて、大分で演奏できることを楽しみにしています。昼と夜の二回公演ということで、演目を変えてお届けします。また、横尾さんの作品から得たインスピレーションより作曲をしてほしい、というご提案もいただいているので、公演にむけて新曲を披露できるように準備していると思うています。皆さんぜひ遊びに来てください!



《戦後》1985年(2017年ハラミュージアムアークでの展示風景) Photo by Shinya Kigure
作品所蔵および写真提供:公益財団法人アルカンシエール美術財団/原美術館コレクション

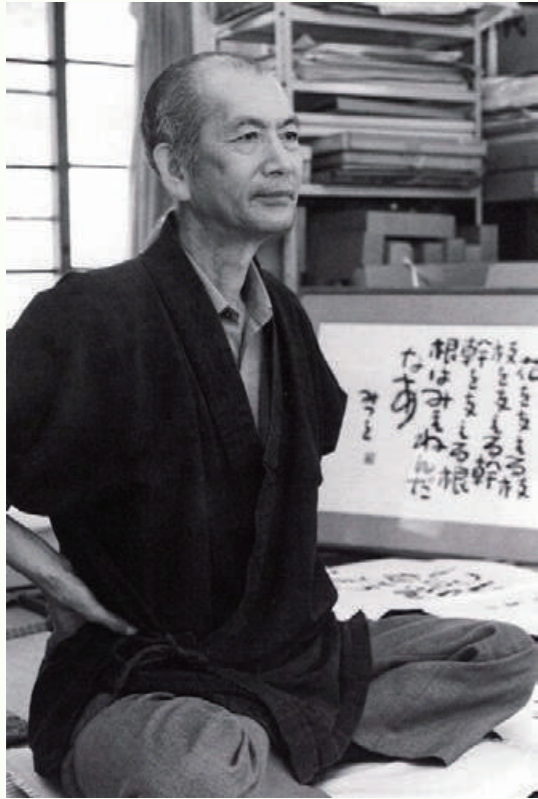
DATA

ワンコインリレーコンサート vol.3

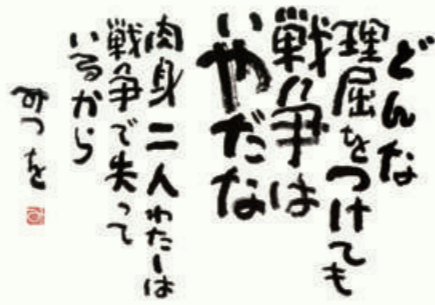
蓮沼執太フル

12/14 (火) ▶ iichiko音の泉ホール

※ 昼公演...開演14:00 ※ 2歳以上入場可 / 夜公演...開演19:00 ※ 未就学児入場不可 ¥500 (前) iichiko総合文化センター Tel:097-533-4004

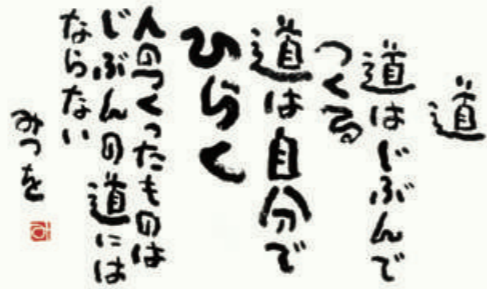


書家・詩人 相田 みつを



《戦争》1990年頃

10代で二人の兄を戦争で失ったことが、相田みつをの創作の原点となっています。嘆き悲しむ母の様子に衝撃を受け、生とはどういうことなのか、死とは、いのちとは、自分はどう生きればいいのか、ということを実際に考えるようになりました。

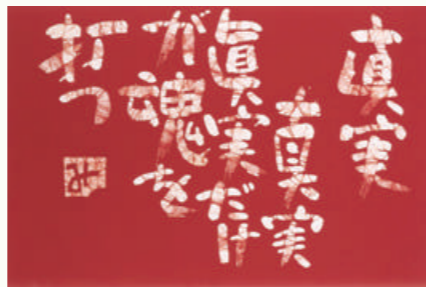


《道》1991年

30歳の時に、第1回目の個展を開き、本格的な創作活動に入ります。それまでは好きな歌人の短歌などを書いていましたが、30代からは自分で詩を作り、自分の詩にふさわしい文字を生涯探求し続けました。

書家・詩人 相田 みつを (1924-1991)

- 1924(大正13)年 5月20日栃木県足利市に生まれる。本名光男。
- 1942(昭和17)年 18歳 旧制栃木県立足利中学校を卒業。歌人・山下陸奥に師事し、歌誌「一路」に参加する。秋の歌会で生涯の師となる曹洞宗高福寺の禅僧・武井哲應老師と出会い、在家のまま師事し禅を学ぶ。翌年19歳の時から本格的に書を学び、書家・岩澤溪石に師事する。
- 1945(昭和20)年 21歳 6月に召集され宇都宮の連隊に入隊し、終戦まで通信兵の訓練を受ける。
- 1954(昭和29)年 30歳 第6回毎日書道展に入選。以後、第12回展まで連続7回入選。10月に第1回個展を足利市で開催し、以後、亡くなるまでにおよそ20回の個展を開催する。
- 1955(昭和30)年 31歳 この頃からろうけつ染めの技術を学び、暖簾、風呂敷等を制作する。また、足利の老舗商店の包装紙や菜(しおり)のデザインを手がける。
- 1966(昭和41)年 42歳 足利市八幡町へ転居。アトリエをつくり、終生ここで創作を行う。
- 1967(昭和42)年 43歳 日めくりの原点となった「こころの暦」を樹徳高校(群馬県桐生市)のためにつくる。
- 1974(昭和49)年 50歳 在家の仏教活動として「円融会」をつくり、「円融便り」(1974年7月～1990年4月まで76号)を発行する。
- 1984(昭和59)年 60歳 初めての著書『にんげんだもの』(文化出版局)を出版する。
- 1991(平成3)年 67歳 こころの暦『にんげんだもの』とトイレ用日めくり『ひとりしずか』を発行する。12月17日足利市内の病院で脳内出血により永眠。享年67歳



《真実》1950年代後半

31歳の時に、ろうけつ染めの技術を学びます。当時、書を書くことだけでは生活ができなかったので暖簾や風呂敷などを作って販売し、生活の糧としました。

DATA

相田みつを全貌展 ～いのちの尊さ ことばのチカラ～

11/26(金)～2022年 1/23(日) ▶大分県立美術館 3階 展示室B

10:00～19:00、金・土曜～20:00※入場は閉館の30分前まで 一般1,200(1,000)円、大学・高校生800(600)円、中学・小学生500(300円)、未就学児は無料 ※()内は前売りおよび有料入場20名以上の団体料金 ※大分県芸術文化友の会 びび KOTOBUKI無料・同伴者1名半額(2回まで)、TAKASAGO無料(2回まで)、UME団体料金 ※障がい者手帳等をご提示の方とその付添者(1名)は無料 ※学生の方は入場の際、学生証をご提示ください 大分県立美術館 Tel:097-533-4500

主催:相田みつを全貌展大分実行委員会(大分合同新聞社、TOSテレビ大分、公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団・大分県立美術館) 後援:大分県、大分県教育委員会、NPO法人大分県芸術、国際ソロプチミスト大分・府内、J:COM大分ケーブルテレビ、エフエム大分、NOAS FM、ゆふいんラヂオ局、月刊・シティ情報おおい 特別協力:相田みつを美術館 特別協賛:こくみん共済coop大分推進本部、株式会社プライム、ヤクシングループ風之荘、医療法人 祥成会 みなと眼科クリニック

■相田一人館長によるギャラリートーク 日時:11/26(金)11:00～/14:00～ 各回約20分 申込み不要 会場:大分県立美術館 3階 展示室B 当日参加可 参加費:無料(要展覧会観覧券)



《いのちいっぱい》1991年

全国初公開作品や、門外不出の作品も展示!

相田みつを全貌展

～いのちの尊さ ことばのチカラ～

栃木県足利市に生まれた相田みつを(1924-1991)は、戦中戦後の動乱期に書の世界に身を投げ、「いのち」の尊さを見つめながら、独特の文字で自らの言葉を書く作風を確立しました。1984年の作品集『にんげんだもの』がベストセラーとなり、広い世代の共感と感動を呼びおこしました。本展は、生きる勇気を与えてくれる相田みつをの世界を、代表作をはじめ初公開作品など約130点と貴重な資料を通してご紹介する展覧会です。

テーマは「いのち」の尊さ

児童虐待や自殺、いじめ、ひきこもりなどが社会問題となっていますが、この展覧会は未来ある子供たちの健やかな成長を願うとともに心に癒やしを与えます。相田みつをを子供への愛情を詩心に託して表現しました。家族のきずな、親子のきずな、思いやりなどを、親子、祖父母、孫など様々な世代で一緒に考えていただく機会となることを願っています。

(相田みつを「創作ノート」より)

「いのちいっぱい」に生きてきてぼんとうに良かった。どんなときでも心の底からしみじみと言えるような人生を生きてゆきたい」



《にんげんだもの》1980年

おおいた障がい者芸術文化支援センター

令和3年度オープンアトリエ



センターでは、障がいのある人と無い人がともに芸術文化活動を楽しむための活動を企画しています。コトブキヤ駅南店を会場に昨年秋から継続開催している「オープンアトリエinコトブキヤ駅南」は、様々な種類の紙やペン、絵の具等を自由に使うことができ、初めて使う画材との出会いや、

新しい表現が生まれる場になっています。今年にはさらに「5つのアトリエ」「オープンアトリエinたけた」を企画しました。美術やダンスの専門家を講師にテーマに沿って活動します。「ざわらずにふれる!? ダンス」や「ふわぼかベツ」等、面白いお題を用意しています。イベント詳細はセンターのウェブサイトをご確認ください。



ウェブサイト

今後の開催予定

参加費無料・要事前申込

- 「オープンアトリエinコトブキヤ駅南」
10/10、11/21、12/12、2022/1/9、1/23、2/13、2/27
▶いずれも日曜日、コトブキヤ駅南店にて
- 「5つのアトリエ」
10/2(土)…「しげやんといこう! 2021年ダンスの旅」
講師:北村成美(ダンサー)▶iichiko総合文化センター
11/27(土)…「ざわらずにふれる!? ダンス」
講師:佐久間 新(ジャワ舞踊家)▶iichiko総合文化センター
12/18(土)…「ふわぼかベツ」
講師:Kana(美術家)▶大分県立美術館
- 「オープンアトリエinたけた」
9/26(日)…「ぼわんぼわん祭り」
講師:榎本寿紀(大分県立美術館 教育普及室長)
10/3(日)…「しげやんといこう! 2021年ダンスの旅」
講師:北村成美(ダンサー)
11/28(日)…「ざわらずにふれる!? ダンス」
講師:佐久間 新(ジャワ舞踊家)
▶いずれもグランツたけた(竹田市)
- 問い合わせ先
おおいた障がい者芸術文化支援センター
097-533-4505(平日9:00~17:00)

JUNIOR ORCHESTRA

ジュニアオーケストラ
団員インタビュー
vol.2
【バートリーダー編】

オーケストラの魅力や定期演奏会に向けた意気込みを伺いました。



オーボエ 田中絵梨香さん(大2)

音楽の楽しさを実感できる

オーボエは、オーケストラの中では管楽器のリーダーみたいな役割で、独奏も多く目立つ楽器です。その分プレッシャーもあるのですが、成功した時はすごくうれしい! ジュニアオーケストラは先生方が本当に素晴らしくて、練習が勉強になるだけでなく、音楽の楽しさを教えてくださいました。今回の定期演奏会では、チェロの宇野健太さんとの共演を一番楽しみにしています。



トランペット 伊藤愛梨さん(中1)

ステージに立つのが夢でした

小学生の時にアカデミークラスに入って、トランペットを始めました。トランペットの魅力はいろんな音色があって、聴いていて「心地いいな」と思うところ。今年の春にオーディションに合格して入団したばかりなので、今回初めての出演になります。今までは観る側だった憧れのステージに立てることが、すごくうれしいです。皆さんのレベルに追いつけるように、練習をがんばりたいです。

EVENT

Oita Hall Navi おおいたホールナビ [大分県公立文化施設協議会加盟館が主催する舞台芸術公演情報]



第25回
なかつ市民芸能祭
10/24(日)
[開演]9:30 [終演]15:30
[料]前売500円、当日800円
[出]中津文化協会会員
他協力団体
[所]中津文化会館 大ホール
[問]中津文化会館
☎0979-24-1155

なかつ寄席
瀧川鯉斗独演会
11/27(土)
[開演]18:30 [終演]20:00
[料](全席指定)
前売2500円、当日3000円
[出]瀧川鯉斗
[所]中津文化会館 大ホール
[問]中津文化会館
☎0979-24-1155

プロとコラボ!
キッズダンスカーニバル
2022年1/16(日)
[開演]14:00 [終演]16:00
[料]500円
[出]伊藤キム、地元ダンススクールチーム
[所]ビーコンプラザ フィルハーモニアホール
[問]ビーコンプラザ事務局
☎0977-26-7111

※やむを得ない事情により公演内容が変更となる場合があります。詳しくは各館にお問合せください。

INFORMATION
インフォメーション

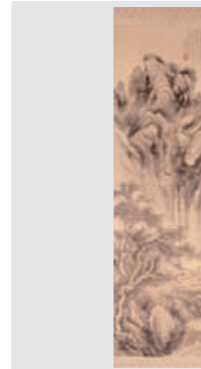
コレクション展Ⅲ・Ⅳ

竹工芸特集展示 此君礼賛—おおいた竹ものがたり

コレクション展Ⅲ

豊の国・温故知新

11/9(火)~12/20(月) [休展日 12/1(水)]
前期 11/9(火)~11/30(火) 後期 12/2(木)~12/20(月)
▶大分県立美術館 3階 コレクション展示室



田能村竹田《琴客観瀑図》1834年

異文化を積極的に受け入れる進取の気風に富む大分。大友宗麟の時代の南蛮文化や、江戸時代後期より田能村竹田を中心に広く普及した豊後南画、近代以降に芸術として大きく花開いた竹工芸、これらの豊の国の芸術文化の足跡を辿るとともに、現在へとつながる影響などについてもご紹介します。

コレクション展Ⅲと同時開催

竹工芸特集展示 此君礼賛—おおいた竹ものがたり



vol. 2 テーマ 白竹
PickUpアーティスト/ 生野徳三
生野徳三《白竹の籠 洋》大分県立美術館蔵

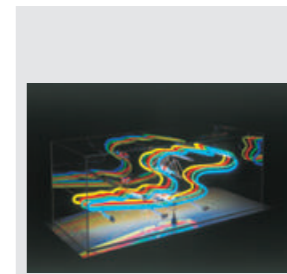
時 10:00~19:00、金・土曜~20:00(入場は閉館の30分前まで) 料 一般300(250)円、大学・高校生200(150)円 ※ ()内は有料入場20名以上の団体料金 ※中学生以下は無料 ※大分県芸術文化友の会 びびKOTOBUKI無料、TAKASAGO無料、UME団体料金 ※県内の小学・中学・高校生(これらに準ずる者を含む)とその引率者が教育課程に基づく教育活動として観覧する場合は無料 ※障がい者手帳等をご提示の方とその付添者(1名)は無料 ※高校生は土曜に観覧する場合は無料 ※学生の方は入場の際、学生証をご提示ください ※開催中の企画展半券提示で1枚につき1回無料でご覧いただけます 大分県立美術館 Tel:097-533-4500

主催:公益財団法人分県芸術文化スポーツ振興財団・大分県立美術館

コレクション展Ⅳ

池田栄廣生誕100年・吉村益信没後10年
革新と前衛の美術

12/24(金)~2022年2/14(月) [休展日 1/19(水)]
前期 12/24(金)~2022年1/18(火) 後期 2022年1/20(木)~2/14(月)
▶大分県立美術館 3階 コレクション展示室



吉村益信《Neon Cloud-Neon ネオン雲》1966年

既成の概念や形式に留まらず、革新的、前衛的な表現を目指した美術をご紹介します。とくに池田栄廣をはじめとした戦後日本画の動向や、1960年、ネオ・ダダイズム・オルガナイザーズを結成した前衛芸術家・吉村益信の活動や作品を特集します。

コレクション展Ⅳと同時開催

竹工芸特集展示 此君礼賛—おおいた竹ものがたり



vol. 3 テーマ 網代編
PickUpアーティスト/ 渡辺竹清(二代)
渡辺竹清(二代)《煤竹小宮》大分県立美術館蔵

KAHAKU

生命のれきし—君につながるものがたり—



ニッポノサウルス全身骨格

地球が誕生してから46億年。私たち現代の人間が誕生するまでの間、地球やそこに住む生き物たちはどのような道のりを歩んできたのでしょうか。約38億年前の地球最古の岩石、ようやく現れた大型生物エディアカラ生物の化石、陸上に進出した植物化石や、恐竜の全身骨格、そして私たち哺乳類の化石などの標本・資料と一緒に、地球のれきし・生命のれきしをたどる46億年のものがたりへご招待します。

12/11(土)~2022年1/31(月) ▶大分県立美術館 1階 アトリウム
時 10:00~19:00 ※金・土曜~20:00
料 無料 大分県立美術館 Tel:097-533-4500

主催:大分県芸術文化スポーツ振興財団・大分県立美術館 特別協力:独立行政法人国立科学博物館

子どもたちへ

～芸術文化の学校連携～



iichiko総合文化センター

センターでは学校や地域と連携して子ども達に本物の音楽や舞台公演の鑑賞機会を提供する取組を、企業からの支援などにより進めています。今回はアウトリーチ活動(おでかけクラシックコンサート)についてご紹介します。

今回は

7月26日(月)/ 大在愛育保育園

中津市在住のチェンバロ奏者・大北絵三子さんが、大在愛育保育園の4、5歳の子どもたちを対象にコンサートをしました。チェンバロを初めて見たという子どもたちが多く、みんな楽器に興味津々。大北さんが演奏のためチェンバロの天板を開けると、内側にはきれいな絵が描かれていました。この絵は、大北さんの祖父が描いた宇佐神宮の池の風景。チェンバロは耳だけでなく、目でも楽しめる楽器だという説明を受けました。

最初に演奏したのは、J.S.バッハ作曲の「プレリュード ハ長調」。その繊細な音色に子どもたちからは、「とても幸せな気分になった!」との声が上がりました。そのあとはチェンバロの模型を使ってその構造と歴史について学びました。チェンバロはピアノと同じ鍵盤楽器ですが、弦を爪ではじくことで音が出ます。そこで、音が出る仕組みを模型で見て、そ

の後楽器の近くで実際に音が出るところを一人ずつ見学していきました。チェンバロの構造や楽器がどう動くかという動きがよく見えるように大北さんが「千と千尋の神隠し」や映画「鬼滅の刃」の主題歌となった「炎」などを演奏。子どもたちは見学の順番待ちの間、歌いながら楽しく過ごしました。実際に見てもらった感想は「チェンバロ作った人って天才!」など、子どもたちは目を輝かせていました。そのあと、ドラえもんの映画主題歌「虹」、最後にバッハ作曲の「イタリヤ協奏曲第一楽章」を演奏し、この日のコンサートは幕を閉じました。

馴染みの曲も多く、楽器と一緒に口ずさんだり、体を動かしている様子もたびたび見られ、感想を聞かれると元気いっぱいに発言し、演奏が始まると耳を澄ましてじっと聴く姿が印象的でした。子どもたちにとって思い出に残るコンサートとなったようです。

アーティスト



大北絵三子さん
(チェンバロ)

久しぶりのアウトリーチ、未就学児へのアウトリーチは今回が初めてでした。特に1曲目は、子ども達にとってチェンバロとの出会いの瞬間になるので、選曲もいろいろと考え、悩みましたが、予想をはるかに超える反応にこちらが驚きました。様々な事が制限される中でも、音楽を通じて、明るく元気な子どもたちと心を響き合わせることができ、とても嬉しかったです。

大分県立美術館

大分県立美術館の教育普及事業のひとつ、県内各地で行っている「出前ワークショップ」は、学校や地域と連携して行っています。そして、これまであまり美術館に来る機会の少なかった中高生を対象に、今年度より新たに「OPAM美術部」が誕生しました。今回はこの2つについて紹介します。

7月9日(金)別府市立東山中学校

出前ワークショップ「東山中学校の色」その2

東山中学校で、植物から色を得るワークショップの第2回目を行いました。参加者は1～3年生15名。前回、野菜の葉や校内で採集した植物で染めた布の上から藍を重ねて染めます。最初に学校で育てた藍の生葉を使って、たたき染めと、ミキサーで砕いて絞り汁に浸す染色を実演。次は藍の枯葉を使って、化学薬品を使わない初めての染色法(葛飾北斎の著書にヒントを得たもの)に挑戦。使うのは藍の枯葉と消石灰、水あめのみ。作業を続けた結果、全体に青っぽく染まり、前回黄色に染まった部分は緑色になって、人それぞれ色味が違うのも新鮮でした。自然から得る色の不思議に浸ったワークショップでした。



OPAM Art club Start! OPAM美術部、始動!

大分県立美術館に「OPAM美術部」が誕生しました!

中学1年生～高校3年生を対象に募集し、定員を上回る36名が入部しました。活動は全12回で、「繰り返しの世界」をテーマに行われるワークショップが毎月1、2回のペースで来年2月まで続きます。特別講師にミュージシャンの小林武文さん、中島さち子さん、鈴木広志さんを迎え、部員が行ったワークショップの積み重ねが最後には音楽となり、コンサートが行われます。

7月18日(日)
2回目

「積み木とモザイク」



美術部顧問の榎本寿紀教育普及室長からインスタレーション(空間構成)について説明を受けたあと、アトリエ全体を使ってインスタレーションにチャレンジ。色とりどりのモザイクや不揃いな積み木、紙コップ、石を部屋の好きなどころに並べました。空間全体を意識しつつ素材を重ねたりつなげたりして、中には身長を超える大作も。最後に映像を投射し、光と影で立体感が増した作品を全員で鑑賞しました。

8月18日(日)
3回目

「音を形に・色に」



1回目に描いた絵をもとに、打楽器奏者の小林武文さんが即興で演奏。そのあと、部員は目隠しをし、聴いた音(聴覚)から感じたことを3種の粘土や1人1個の素材ボックスを触りながら(触覚)造形しました。最後に、完成した作品を見ながら小林さんと、サクソ奏者の鈴木広志さんが即興演奏。聴覚から触覚、そして視覚へ。音が形に、形が音になる貴重な体験ができました。

講師・小林武文さん▶

